

より快適な五十音入力を実現するための研究

Realising A More Comfortable Syllabary Keyboard

山崎 真穂

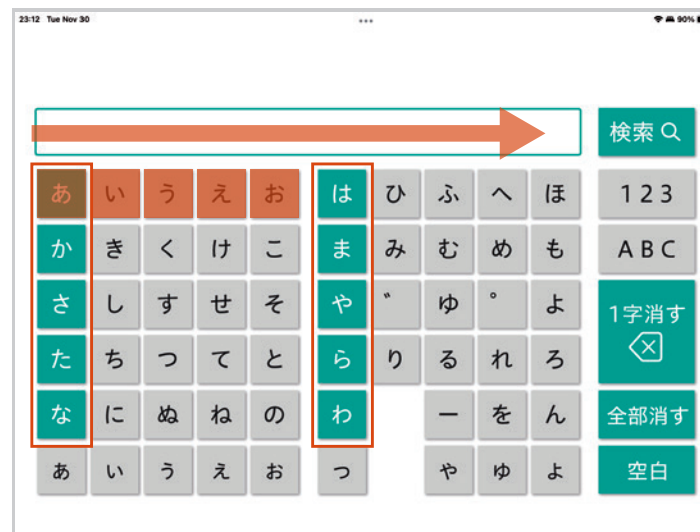


かな五十音のキーボードを見直す

五十音キーボードは、仮名を学習した人の多くが使うことができる。しかし、多くの場でひらがなやカタカナの五十音のキーボードが利用されているにもかかわらず、多くの人がそれに不便を感じている。この研究では五十音の配置を見直すことで、より快適な入力を実現する。

Rethinking The Syllabary Keyboard

Most people who have learned Hiragana and Katakana can use the Japanese syllabary keyboard with ease. Even in spite of this, many people actually find it's current design unrefined and inefficient. My research attempts to re-consider the placement of the characters to make input more fluid.



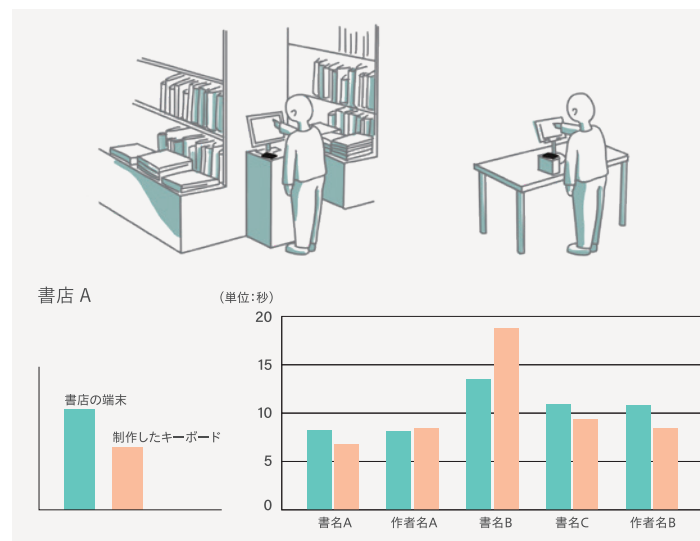
五十音の配置

検索窓と同じ方向に「あいうえお」を配置することで、文字をより自然に探すことができる。行頭から探すことを促すため、「あかさたなはまやらわ」を強調した。



検証

実際に動くキーボードをプログラミングした。実動モデルを用いることで、より正確にフィードバックを得たり、打鍵速度の計測が可能になる。



速度の比較

- 書店の端末で指定の書名や作者名の入力を行う。自身でストップウォッチをスタートさせ、入力し終わったら停止する。各単語3回繰り返し、データはその平均値とする。このとき、両手は自由な状態にする（片手で打っても両手で打っても良い）。
- 同じような姿勢を再現し、自作のキーボードで再び単語の入力・時間の計測を行う。

被験者1に対し書店Aで行った調査では、全体的に打つ速度が速くなった言葉が多い。また、本人からも「体感的に速くなった」という感想を得ることができた。